

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度第3回相模原市立図書館協議会				
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604(直通)				
開催日時		令和元年8月29日(金)午前10時00分～11時45分				
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	3人(生涯学習課担当課長、同副主幹、同主任)				
	事務局	7人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>1 議題</p> <p>(1) 次期相模原市図書館基本計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画案について <p>(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画案について <p>(3) 平成30年度図書館事業評価について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて <p>(2) その他</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局等の発言)

1 議 題

(1) 次期相模原市図書館基本計画について

- ・ 計画案について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

【資料 1 - 1】図書館協議会における今後の予定

質疑なし。

【資料 1 - 2】第二次図書館基本計画(案)

素案では、基本目標で「支援」という言葉が使われていたが、計画案ではより前向きな表現に変わり、それに合わせた施策の方向に修正され、より良いものになったと改めて感じた。

多くの施策が打ち出されており、それらが十全に実施できれば素晴らしい図書館になるだろうと感じた。実現に向けての活動に期待したい。

子どもたちへのアプローチに対して、学校及び学校図書館との連携や、他の教育機関との関係性が計画の中では見えにくかった。

基本目標 4 の施策の方向 「中央図書館機能の確立・充実」における主な施策に「専門的機能」という表現が使われているが、どのような専門性なのかが伝わりにくいのではないか。

市立図書館を中央図書館として位置付けるにあたり、現在の地域図書館としての役割との違いを「専門的」と表現している。具体的には、より高度なレファレンスサービスを実施できるような資料の専門性、地域図書館と比べより充実した蔵書、障害者サービスや多文化サービスなど難易度の高いサービスを推進する人材や体制等を想定している。さらには、専門的な人材・資料・設備を活用して、地域図書館や公民館等図書室を支援していくことをイメージして「専門的機能」とした。

図書館は公共施設の中でも幅広い世代が訪れやすい場所である。そのことを踏まえると、基本目標 1 の施策の方向 「多様な利用者に向けたきめ細かいサービスの充実」において、若者世代・シニア世代へ向けての主な施策の中に「居場所づくり」とあるが、この 2 つの世代に限らず、幅広い世代に向けての居場所となることを想像しながら施策を進めていけると良い。

計画上では、基本目標 1 の施策の方向 「利用環境の充実」の中に、居心地の良い空間づくりなどを含めている。また、基本目標 4 の施策の方向 「地域図書館における地域に根差したサービスの充実」において、「サードプレイス」とい

う言葉で表現している。図書館の敷居の低さを生かして、居心地の良い図書館を目指したい。

【資料 1 - 4】成果指標の目標値設定について

指標 4「図書館ホームページのアクセス数」は、これまでのデータが無く設定がしにくいところだと思う。

現状では、システム更新後ということもあり高い数値で推移していると考えられるため、目標値の設定が難しいところである。

指標 3「利用者の満足度」は、平成 24 年に 59.4%だったものが、平成 27 年には 68.8%まで増加しており、約 10 ポイント向上しているのは大きい。施策を実施していく上で参考になるのではないかと思う。また、現状値が 71.8%、目標値が 80%というのも、高い数値とを感じる。

参考までに他市図書館の利用者アンケート等の事例を見ると、幅はあるものの、80%から 90%に達しているところもあり、非常に高い数値だった。考え方が難しいところだが、満足度の向上を目指して 80%に設定した。

利用者アンケートの協力者は、図書館に好意的な方が多いと思われるので、サービス向上に加え、不満の解消に努めることも満足度の向上につながるのではないか。

利用者満足度に限らず、掲げられている数値（特に現状値）が低いのか、または適切な運営の結果として妥当な数値が出ているのか、その部分を評価しなければ目標値を設定することも難しいと考える。単に増加を目指すということではなく、現状値でも十分に高いということは考えられるので、そこを踏まえて数値を設定し、評価をしていくことが大切だと思う。

市政モニターの回答者には、図書館未利用者も含まれていると思うが、毎年数値を取ることはできるのか。

市政モニターは広聴広報課が年 3 回実施している。庁内の各課がエントリーした中から対象を選定しているため、図書館で毎年実施するのは難しいと思うが、機会を捉えながら計画の進行管理にも活用していきたい。

指標 4「図書館ホームページのアクセス数」については、アクセスして目的が果たせるかどうか重要な視点だと思う。アクセス数は多くても滞在時間が極端に短いと、目的を果たせないまま離脱していることも考えられるので、滞在時間数もホームページの活用状況を測るには参考になると思う。

現状のシステムでは、滞在時間数を測る仕組みが無い。また、指標 4 については、様々なページへのアクセス数が取れる中で、8 年間で経年的な推移を見るのに適切なページとして、トップページへのアクセス数を設定した。

滞在時間数等の補助的な数値を測ってホームページの利用を分析的に見ていくことで、アクセス数の数値の意味も検証できると思うので、ある一定期間だけ

でも補助的な数値を測ってみるなど、工夫ができると良い。

最近のシステムでは、ホームページを訪問したユーザーに満足したかどうかを問うような機能を使用しているサイトもある。

(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について

・ 計画案について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

【資料2 - 1】第三次相模原市子ども読書活動推進計画案

推進への取組4「ボランティアとの協働及び活動支援」の主な施策「ボランティアとの協働推進」に大学生ボランティアとの協働とあるが、現在は何人ぐらいいるのか。

桜美林大学の学生3名が中心となって、市立図書館のYAコーナーの展示等に協力いただいている。この3名に限らず、今後他の大学にも協力を得ていきたいという意味も含め、取組として記載している。

【資料2 - 1】成果指標の目標値設定の考え方

基本方針2の指標に読書への関心を測る指標があるが、いくつかの調査を見ても、読書が好きと答える割合は同程度で高い傾向にある。一方で、実際に読書をしているかといえば、あまり読書をしていないように感じている。基本方針1の指標「1か月に本を1冊以上読む子どもの割合」の現状値は、おそらく朝読書も含まれていて高い割合となっているが、例えば、中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の質問では、1日当たりの読書時間として3～4割程度が「全くしない」と回答している。子どもたちの読書が好きという気持ちに応えるには、読書をする機会をいかに設けるかが重要だと考える。

これまで協議会で本計画を検討してきて、子どものことを考えて計画が作られていると感じている。また、想像力や考える力を伸ばすという点で、子どもたちにとって改めて読書活動は必要だということも感じた。子どもの実態を見ていると、字がなかなかうまく読めない子どもも大勢いる中では、読書から学びを得るということについて、学校としては何か工夫が必要ではないかと考えている。

基本方針2の指標に「各図書館のおはなし会への参加者数」がある。これは図書館のおはなし会に足を運んだ人の数だと思うが、例えばいくつかの小中学校では様々なボランティア団体が、季節や学年に応じて工夫を凝らしながら本を選び、読み聞かせを行っている。指標の数値としては表れないことだが、読書の楽しさを伝えあう活動をしている方はたくさんいる。

今の話に関連して、計画の成果指標としては見えてこないものがある一方で、例えば基本方針3の指標「読書活動でボランティアと協力している学校や施設の

割合」は、1団体・1回でもあればカウントするとのことなので、現状値の49.1%は低い数値と感じる。

また、基本方針2の指標「各図書館のおはなし会への参加者数」については、各図書館における活動だけではなく、子どもたちに対してより多様な機会があるので、そこも汲んでどうか。あるいは、「読書活動でボランティアと協力している学校や施設の割合」とも連動していることなので、成果指標上は表現されなくても、市の活動としては実現できると良い。

基本方針2の指標「各図書館の中学生・高校生向けイベントの参加者数」の目標値180人は、実績を踏まえて設定されたものだとは思いますが、3館合わせての数値としては人数が少ないことが気になった。

基本方針1の指標「子ども資料団体貸出制度を活用している小・中学校数」に関連して、計画では既存の制度の活用を促進するための検討が行われるものと捉えている。現状では約半数が制度を利用していないということだが、利用されない要素について小・中学校の関係者とも意見交換をするなど、施策を進めていくための活動を求めたい。

「子ども資料団体貸出制度」については、図書担当教諭や学校図書館図書整理員に対して平成30年度にアンケートを実施した中では、多忙でなかなか図書館に足を運べないことが利用しない一因となっていることが見えてきた。現状の制度では、本の選定・貸出・返却と多ければ3回来館が必要なため、利用がなかなか難しいというご意見があった。本計画では15ページで「配送方法の検討」という取組を挙げているが、例えば宅配便を活用するなどして、学校への配送と返送を図書館が負担することにより、制度の活用を図れないかと考えている。

学校に貸し出す資料は、図書館ホームページ上で検索できるのか。本の選定にはたいへん時間がかかるので、ホームページ上である程度内容も含めて検索ができれば来館の負担の軽減にもつながるのではないか。

子ども資料団体貸出用資料が検索できる。

(3) 平成30年度図書館事業評価について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

質疑なし。

2 その他

(1) 報告

- ・ 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて
生涯学習課から資料に基づき報告した。

質疑なし。

(2) その他

令和元年度第 4 回の図書館協議会は、11 月中旬以降の実施を予定している。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	鈴木 良雄	専門図書館協議会事務局	出 席
2	副 会 長	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
3	委 員	朴木 昇	相模原市立中学校長会	出 席
4	〃	佐藤 正文	相模原市立小学校長会	出 席
5	〃	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	欠 席
7	〃	小山 憲司	中央大学文学部教授	出 席
8	〃	井狩 芳子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
9	〃	三木 涼子	公募	欠 席
10	〃	水田 繁生	公募	出 席